

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 多治見高等学校 学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和7年7月10日(木) 15:00～16:30
- 3 開催場所 多治見高等学校 大会議室
開催にあたり、委員による桔梗祭見学を実施した
- 4 参加者

向井 貴彦	岐阜大学地域科学部教授
小口 英二	一般社団法人多治見市観光協会COO(書面参加)
小西 直哉	JR 東海多治見駅首席助役
坂崎 雄介	多治見青年会議所理事長
田口 直佳	「やくならマグカップも」原作ディレクター
中嶋 麻子	育友会副会長
村松 敦子	多治見市養正交流センター長
山内 英之亮	多治見市役所企画部企画政策課課長代理
学 校 側	
増田 智至	校長
川原 正史	教頭
大野 和司	事務長
桑原 華栄	教務主任
石田 春彦	進路指導部長
八橋 想	生徒指導部長
鈴木 貴博	特別活動部長
丸山 真	保健厚生・渉外部長
山岡 隆太	記録

- 5 会議の概要(協議事項)
 - (1) 校長挨拶
 - (2) 学校経営計画について
 - (3) 各分掌の課題と方針について
 - (4) 学校運営協議会委員からのご意見・ご感想等
 - ① 生徒の状況について
 - ② 教職員の状況について
 - ③ 学校運営について
 - ④ 本校の将来像を考えるための提言(本校に求めるもの)等
 - (5) 諸連絡

桔梗祭（文化祭）見学、及び学校経営計画の承認を得た後、学校からの説明を踏まえ、委員から（４）に関して意見を得た。

- 意見１： 主体的、能動的に物事に取り組むことは、自己形成の上でも有効な手立てである。学校ではいろいろなことに挑戦する機会をもってほしい。また、失敗を繰り返しながらも挑戦を続け、成功を勝ち取るという体験をさせてほしい。
- 意見２： 生徒が将来地元に戻りたいと思えるような取り組みを続けてほしい。その点からも、地域課題解決に取り組む探究活動は良い実践である。
- 意見３： 当事者意識を持って諸課題に向き合い、自分自身を客観視した上で、適性を活かすことができるような人材を育成してほしい。
- 意見４： どのような教職員がいるかによって学校の印象は大きく変わるが、現在の多治見高校は大変いい状況にある。
- 意見５： 生徒が達成感、充実感を得るためには、課題を与える一方で、生徒が自主的、自律的に向き合う姿勢も必要であり、状況に照らして適切に支援することが大切である。
- 意見６： 桔梗祭の展示物や劇を参観したが、構成がしっかりとしており、皆で意見を出し合い創り上げられたものであることがわかる。協働することで得られたこの貴重な経験を今後のキャリア形成に活かしてほしい。
- 意見７： 探究活動は１年から３年まで充実した活動内容で筋が通っている。動機付けもしっかりしており、活動の趣旨も生徒によく浸透している。グループで活動する場面も多く設定されており、絆を深める機会としてほしい。
- 意見８： 多治見市としてSDGs アイディアコンテストを企画している。楽しく自由な発想で、積極的に参加してほしい。また、大学が市内に設置される予定であり、部活動を始めとして、様々な分野で積極的に交流の機会をもてるとよい。
- 意見９： 自転車の事故が散見される。利用者に対し、周囲への配慮を含めて注意を喚起してもらいたい。多治見市はヘルメット購入時の補助金も出している。ぜひ利用してほしい。
- 意見１０： 少子化に伴い、大学入学の競争率が低下し、入試方法も多様化している。しかしながら、基礎・基本を大切にした上で、確かな学力を生徒につけてほしい。高校での学びは、大学進学後においても、さらにその後の学びにおいても確かな足場となるものである。

６ 会議のまとめ

第１回学校運営協議会では、全委員より今年度の本校の学校経営計画を踏まえた学校運営基本方針について承認が得られた。また、本校の社会的役割や存在意義に関する貴重な意見をうかがった。これらを今後の学校運営に活かしていきたい。